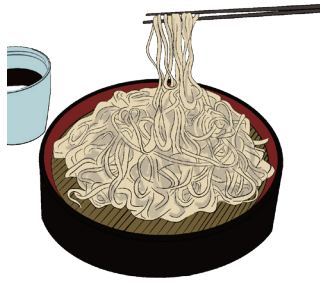


◆そばアレルギー

そばアレルギーは、幼児期に即時型症状を示すことが多く、重篤な呼吸器系症状が多いことが知られており、死亡例も報告されています。



そばのアレルゲンのうち臨床症状との関連が示されているのは、2Sアルブミン、 α -ヘアピニンです。普通そばの他、だったんそばにも普通そばと類似したアレルゲンが含まれていると報告されています。

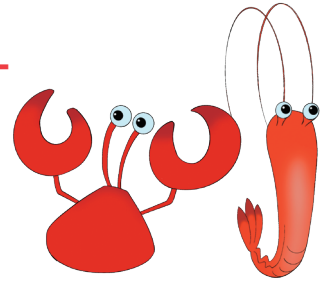
そばのアレルゲンは水に溶けやすく熱に強い性質があり、そばと同じ釜でゆでたうどんなどを食べることでアレルギー症状が誘発されることがあるため、そばアレルギー患者はそばを扱う飲食店での外食は控えることとされています。

食品以外では、そば殻の枕などがありますが、そば粉、そば殻の粉じんを吸入することでぜん息様症状が誘発される場合があるとされています。

そばは主にアジアで消費される食品であり、日本のほかに韓国でも食物アレルギー表示の対象となっていますが、欧米では食物アレルギー表示対象とされていません。

◆えび・かにアレルギー

甲殻類アレルギーは、学童期以降に発症する即時型症状の他、食物依存性運動誘発アナフィラキシー（コラム参照）として発症することが多いとされています。



甲殻類（えび・かに）の主要アレルゲンであるトロポミオシンは、加熱により変性しますが、冷却することにより元の構造に戻ることが報告されており、熱に対して安定とされています。

甲殻類のうち特定原材料の対象となっているえびとかには臨床的交差反応性^{*2}が高く、えびアレルギーの患者がかにに対してもアレルギー症状を示す割合は約65%と報告されています。

また、コオロギなどの昆虫食については、昆虫のトロポミオシンと甲殻類のトロポミオシンに交差抗原性があり、アレルギー発症の可能性がある、と示唆されています。

えび・かには、水産加工品の原材料への混入のため注意喚起表示がされている場合がありますが、重度の患者でなければ、基本的には摂取できることが多いとされています。一方で、重度の甲殻類アレルギー患者では調味料やスナック菓子などに含まれる甲殻類エキスを除去する場合もあります。

コラム

食物依存性運動誘発アナフィラキシーとは？

食物依存性運動誘発アナフィラキシー（Food-dependent exercise-induced anaphylaxis: FDEIA）は、食物アレルギーの特殊型として知られています。FDEIAは、特定の原因食物の摂取又は運動負荷のどちらか一方だけでは発症しませんが、原因食物摂取後に運動負荷が加わることによって、重篤なアナフィラキシーが誘発される病態です。

FDEIAの原因食物として多いのは小麦で、次いで甲殻類ということが複数の報告書で明らかにされています。



【用語解説】

※1 IgE抗体

特定の抗原（アレルゲン）と特異的に反応し、免疫反応を引き起こす生体物質。即時型アレルギー反応を引き起こす。

※2 臨床的交差反応性

異なる食品中のタンパク質に共通の構造をしたエピトープ（IgE抗体が結合する部分）が存在し、IgE抗体が両者に結合することを「交差抗原性」といい、交差抗原性によって異なる食品に同時にアレルギー反応を認めることを「臨床的交差反応性」という。